

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 9 7	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Does the association between alcohol consumption and depression depend on how they are measured? 飲酒量とうつ病の関連は調査方法によるのか?	
執筆者	
Graham K, Massak A, Demers A, Rehm J.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Clin Exp Res. 2007 Jan;31(1):78-88.	
キーワード	
飲酒パターン、うつ病、性別による違い、調査方法	
要 旨	
<p>背景： 飲酒量とうつ病の関連については統一見解がなく、JカーブやUカーブの関連があるという意見もある。この原因の、少なくとも一部は、飲酒量とうつ病の双方の調査方法にあると思われる。</p> <p>方法： ランダムに抽出した電話番号に電話する方法 (RDD) とコンピュータが選んだ電話番号に電話する方法 (CATI) を使って、一般住民を対象とした研究を実施した。対象は 18～76 歳の男性 6009 人と女性 8054 人である。この研究では、飲酒量調査について、過去 1 週間と過去 1 年間の双方について 4 つの方法 (飲酒回数、1 回の普通飲酒量と最多飲酒量、全飲酒量、多量飲酒の状況) で調査し、うつについては、2 つの方法 (DSM の大うつ病の診断基準に照合する方法、最近のうつの感情的感情を調査する方法) で調査した。</p> <p>結果： うつと飲酒量の関連は性別とうつ病の調査方法では違いがなかったが、飲酒量の測定方法で有意な違いがあった。すなわち、多量飲酒の状況と 1 回の最多飲酒量の調査でうつと最も強い関連を示した。また、うつの調査方法でも飲酒の測定方法でも、性別により有意に差があった。うつを DSM の大うつ病の診断基準に照合する方法で調査したときと、飲酒量を 1 回の飲酒量で調査したとき、及び多量飲酒の状況で調査したときに、女性の方が男性より強い関連を示した。Jカーブ型の関連を示す場合もあった。すなわち、最近のうつの感情的感情で調査すると、1 回の普通飲酒量が 1 ドリンクの人より、禁酒した人の方がうつがひどかったり、禁酒者と生涯一度も飲酒したことのない人を含めた非飲酒者が、5 ドリンク飲酒する人と同等のうつ状態であったりした。しかし、うつを DSM の大うつ病の診断基準に照合する方法で調査すると、Jカーブ型の関連は禁酒者でのみ認め、他の解析では有意な差は見られなかった。</p> <p>結論： この研究結果は、飲酒とうつ病の関連には調査方法と性別が重要であることを示唆している。うつは飲酒の 1 回量とより強く相関し、全飲酒量との相関は弱く、飲酒回数とは相関しなかった。この関連は男性より女性の方が強かった。次に、うつを DSM の大うつ病の診断基準に照合する方法で調査する場合のみ、うつと飲酒の関連は女性の方が男性より強く出るが、うつを最近のうつの感情的感情で調査すると、そのような結果は得られなかった。最後に、禁酒者は大うつ病の割合と最近のうつの感情的感情のスコアが、少量飲酒者より高い証拠があったが、少量飲酒者は生涯非飲酒者と比較して、最近のうつの感情的感情のスコアがより低かったにもかかわらず、少量飲酒者のほうが大うつ病になりやすいとは言えなかった。</p>	